

7日 土曜

黙示録

11:15 第七の御使いがラツパを吹いた。すると大きな声が天に起こって、こう言った。「この世の王国は、私たちの主と、そのキリストのものとなった。主は世々限りなく支配される。」

11:16 すると、神の御前で自分たちの座に着いていた二十四人の長老たちが、ひれ伏し、神を礼拝して言った。

11:17 「私たちはあなたに感謝します。今おられ、昔おられた全能者、神である主よ。あなたは偉大な力を働かせて、王となられました。」

11:18 諸国の民は怒りました。しかし、あなたの御怒りが来ました。死者がさばかれる時、あなたのしもべである預言者たちと聖徒たち、御名を恐れる者たち、小さい者にも大きい者にも報いが与えられる時、地を滅ぼす者たちが滅ぼされる時です。」

11:19 それから、天にある神の神殿が開かれ、神の契約の箱が神殿の中に見えた。すると稲妻がひらめき、雷鳴がとどろき、地震が起こり、大粒の雹が降った。

7つ目の封印の中には7つのラツパの出来事が含まれていて、そのラツパの最後である7番目のラツパが鳴らされました。これには天上の礼拝から始めて、天上の戦いなど多くの出来事が含まれていますが、その最後にさらに7つの鉢（がぶちまかれる）の出来事が入っているのです。気の遠くなるような、終末の出来事の膨大さですが、主のご計画はどれも違えることなく、実現されるのです。

天上の礼拝から始まることは重要です。主はこれら多くの苦難を、ただいたずらに意味もなく起こすものではありません。全ての根源にして、全ての創造者なる神である主を、人々が認めることがその本質



です。たとえ全宇宙の根底を揺るがすような転変地異が起こされたとしても、またはそこから平和へと転じたとしても、主に敵対する世であるならそれは滅びに定められているのです。なぜなら、主に敵対する者は、自分自身を主とするもので、そのような者同士は戦い合うことになるからです。それでサタンはそのような、神の敵を用いるからです。

あらゆるものが、主への礼拝に帰結することを常に覚えましょう。私たちの日常の生活でも、主を礼拝することにつながるという意識、目的で見ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

